



プロ集団が高い技術力を発揮する

単品・小ロット、短納期ニーズに 高度な精密板金技術で応える

株式会社 京伸

事業内容と沿革

ゼロからの出発—— 難解な仕事に挑戦し顧客を拡大

古川治樹社長は大学時代にアルバイトで板金加工の仕事に触れた。その後、「一品一様」手作りで形にするものづくりの喜びを体感し試作板金の世界に飛び込んだ。平成20年、「今まで以上の仕事に挑戦したい」という思いから、蓄えた技術とノウハウを持って独立。従業員3名でスタートし、ベースとなる顧客はゼロからの挑戦だった。さらに創業直後、リーマンショックに直面する。経済の困窮で受注が極めて難しくなる中、自社でホームページを立ち上げるなど顧客獲得に奔走。安価で納期が厳しい仕事にも積極的に取り組んだ。業界では「難解な仕事でも丁寧に対応してくれる」という口コミが広まり、徐々に取引先が増えていく。「今でも、顧客のどんな注文も断らないことがモットー。独立当初に鍛えられた経験が現在の力になっている」と古川社長は振り返る。

さらに、同社は業種や顧客ターゲットを絞らず精密板金に関する全ての要望に応えている。手がける製品はブラケットや端子など微小な電子部品から、長さ6mの定盤に乗る大型の筐体まで幅広い。業界内でこれほど広域な加工を手がける企業は少なく、取引先も医療や食品関係、半導体、建設関連など幅広い。

強み

社業発展へ強みとなった 短納期対応

設立当初より試作など多品種・小ロット生産や加工に特化し、短納期を最大のアピールポイントとして営業展開や設備拡充を進めてきた。古川社長は「社業発展を支えてきた大きな強みは短納期対応にある」と語る。顧客から受けた限界に近い仕事も責任を持って仕上げ信頼を得てきた。短納期を可能にする要因は若い従業員のパワー。体力はもとより思考が柔軟なうえ、技術の吸収も早い。今や、製造を中心とした各部署で20代のリーダーが率先して指揮を執り、組織力を発揮している。

また、同社では技術力向上のための設備拡充に力を入れている。毎年のように新鋭設備を導入し、工場が手狭になることでスペース拡大を目的に加工拠点を移転してきた。中でも、メインとなる機械設備が独立時に1台、2年後に再び導入したレーザー加工機。あわせてプレスブレーキや3次元CAD/CAMを導入、さらに納期管理や設計図面のペーパーレス化など独自システムを構成し、短納期・低コスト受注を可能にしている。さらに平成27年1月には、現在の新社屋・工場への移転に合わせ、YAG（イットリウム・アルミニウム・ガーネット）レーザー溶接機を導入した。難易度の高い0.3—2mmの薄板の溶接に威力を発揮。強みとなる装備が加わった。



平成27年に移転した本社・工場



新規導入したYAGレーザー溶接機



定着した清掃活動



改善活動板で5Sのチェック

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- オンリーワン

経験豊富な「板金のプロ集団」が顧客の技術・品質向上を支えます



代表取締役
古川 治樹さん

平成20年創業の若い会社ですが、働くスタッフは経験豊富な「板金のプロ集団」です。試作板金や製缶加工などに関する内容であれば、どのような注文でもお断りしません。短納期、低コストに加え、板金加工における多品種少量ニーズにも精度の高い仕事でお応えします。機構設計から板金展開、レーザー加工、溶接、塗装、組み立てまで社内の一貫体制を構築し、安全かつ迅速な管理システムを実現しています。お客様の技術や製品品質をさらに高めるためのお手伝いをします。

主な事業内容
金属加工における機構設計、精密板金、製缶、組み立て、単品試作、装置一式

主な取引先（納入先）
(株)豊田中央研究所、日立造船(株)、(株)タイテックをはじめとする医療・介護機器、食品機器、産業機械、電子部品、建築金物などの各メーカー

【住 所】〒571-0002 大阪府門真市岸和田2-1-10
【TEL】072-887-6588
【FAX】072-887-6598
【創 業】平成20年2月【設 立】平成20年2月
【資本金】1,000万円【従業員】23名

カドマイスターの取り組み

ステンレス溶接で技術力高め 新市場を開拓

製缶や板金加工において精度や仕上がりでポイントになるのが溶接技術。同社では現場のメンバーを対象に「職人技」の育成を強化する。特に今後の方向性として、古川社長は「食品関連や医療分野など将来有望な成長産業のニーズに応えていくため、ステンレス板金に関する溶接技術の高度化を目指す」。YAGレーザー溶接機もステンレス薄物溶接での効力を求め導入した。また溶接後のバフ研磨などの一貫体制を整えるなど、オンリーワン技術に磨きをかけ差別化を図る。

また、事業方向性の安定とともに、社内規定や教育方針などの改善が求められた。そこで門真市中小企業サポートセンターの指導を受け5S（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）改善活動を開始。取り組みを通し若手人材の考え方を質し、提案力や積極性を喚起した。1年経過した現在、社員自ら行動を起こすなど多様な成果が見られる。また工場内に5S推進の活動盤を設置。社員への周知徹底はもとより、来客者へ統率された社風をアピールできイメージ向上に寄与している。

今後の展開

健康・トレーニング機器を 自社で開発

今後も事業の柱は小ロット単品の仕事に特化。レーザー加工など精密板金に関する技術に磨きをかけ多様化する顧客の要望に応じていく。そのためには医療関連など成長産業の展示会などへ積極的に出展し新規顧客の獲得を目指す。社内的には設備投資の継続と社員の拡充を進める。現在の若手社員が中堅メンバーへ成長する頃には、人員構成を現状の20名程度から50名規模へ拡大する計画。一方、創業時から抱く自社製品開発への意欲はますます強まる。「もっばら当社は図面提供を受け仕事をする受け身の業容。自ら発想した製品を作り上げることは技術者にとって励みになる」と古川社長は語る。

同社ではこれまでも照明ケースや水槽など、板金加工技術を駆使した独自開発製品を製造してきた経緯がある。現在では、新たに健康・トレーニング機器の開発に着目し製品化を進めており「2020年（平成32年）、4年後の東京オリンピックまでには市場に出したい」と意欲を示している。

<http://www.f-kyo-shin.co.jp/>

